

## ●日本人移民の功績について（サンノゼ）

団員 岡田 教人

SUN JOZE（以下サンノゼ）はサンフランシスコ（以下、SFとする）、ロサンゼルスと共に米国に存在する日系人街の一つである。1890年～1910年米国で労働力不足を背景に日系人街が最も栄え、1920年～1930年日系人の排斥運動が高まり、1940年代レーガン大統領による収容と戦争の終焉、そして現在に至ることを前置きとして、以下報告する。



（現地ガイドからの説明）

午前中はジャパントウンウォーキングツアーと称して現地ガイドと共に街を歩いた。日系人街にあるミュージアムから出発したウォークは歩道脇に設置された10客の御影石の椅子の説明から始った。

そこには日系人が収容された10か所の名前が記されていた。そして、そこからジャクソンストリートに向けて歩くこと数分、1946年に作られた石の記念碑をみて当時の日系人のアイデンティティを感じた。

そこには【感謝・我慢】と漢字で記され、【MOTTAINAI】や【GAMAN】とローマ字が記されていた。ガイドいわく、ここで生きた日系人は米国人



（石の記念碑）

からの抑圧に耐えながらも、米国の政策の中でいかに米国人と同化するかを考え、街にコミュニティーを形成する中で日本文化を守り続けて暮らしていたとの説明を受けた。実際に現在でも年間行事として餅つき大会や夏祭りを開催すれば多くの日系人のみならず、米国人も数多く集まるとのこと。他にも街には強く賢く時代を生きた日系人が積み重ねてきた痕跡が至る所に点在し、約2時間ガイドによる日系人の功績を感じたウォークは終了した。



(日本商品を扱う店舗)



(祭りのハッピーを販売)

そして、日系人の民族固有のDNAを感じる話を聞いた。現在、日系人街の住人は日系4世から5世が中心で人口は年々に減少している。一方、SFにあるチャイナタウンは年々人口が増加しており、実際にSF市内を走る一部の市バスの乗客がすべて中国人であった実態もこの目で確認した。ではなぜ、日系人だけが減少しているのか。当時は白人との結婚は御法度であったが、時代と共に白人と結婚する女性が多くなり、日本人としてカウントされなくなったからであるとのこと。このことは何を意味するか。先ほども触れたが我慢と忍耐の生活の中においていかに米国で生き抜くことを考えてきた表れである。人口の増減を評価ではなく、思いやりや道徳心をもち合わせた日系人のスピリッツの高さ・賢さを評価するべきであると感じた。

午後は【Japanese American Museum Of San Jose】を訪問した。約1時間40分、世良マイケル氏によるガイドを受けた。当時、西海岸には米国人口の2%に満たない日系人がいた。その日系人の99.9%は農業で生計を立てていた。日本人が借り受けた土地は作物が育つ環境ではなかったが、日系人の我慢、忍耐の気質通り、灌漑設備や農業技術、工具の



(Japanese American Museum Of

San Jose の正面)

改良をもって不毛な土地に作物ができるようになるまで成長させ、最盛期には西海岸の農作物の6割を占める程に躍進させたのである。1エーカー（約4,000㎡）当たりの収穫量でいうと米国人の6倍もの差があったという。勢いを増す日系人に対してよく思わない米国人の排斥はエスカレートするばかりで、レーガン大統領による1942年2月18日の日系人収容命令にも繋がるのである。戦争だけが理由ではなく、農業革新による日系人の勢力拡大や日本人の気質が米国人の恐怖心や嫉妬心に火をつけたのであろう。収容所での生活を詳細に聞いたが、収容所の多くは砂漠地帯に作られており、劣悪な環境の中、知恵を絞って助け合いながら生きてきた日系人の生き様をみた。戦争終焉後、約半数はサンノゼに戻ってきたものの、耕作地を奪われる者もいれば、収容時に管理



(ガイドから説明を受ける視察団)

を銀行に任せていたことで莫大な管理料を請求され土地を手放した者もいれば、隣人が良心的に管理していたこともあり継続して農業を営むことができた日系人もいた。Museumには1890年から収容以降のサンノゼで生き抜いた日本人の功績が数多く展示されていた。こ

の報告書では書ききれないが、その中でも特にサカウエ エイチはこの時代を生きた日系人の中でも特に功績を残した人物であった。

最後にもう一つ、日系人のほとんどで組織された第442連隊の功績についても付け加えておきたい。アメリカ合衆国史上最も多くの勲章を得た連隊の功績を日系人の大和魂として誇らしげに語るマイケル氏を見て、こちらも目頭が熱くなった。



(サカウエ エイチの写真)

歴史が語り手たちによって、今でも街を訪れる者に語り継がれていた。これら日系人の功績を目の当たりして、私が日本人であることに誇りを覚えるとともに、これらは後世に語り継がれるべきものとして語り継がれてきたのであると確信した。しかし、幸か不幸か、消防法や耐震の関係でメインストリートを含めた中心部は市の負担により再開発されるために取り壊されるようである。残念で仕方ない。

本市にも後世に語り継がれるべき偉人、歴史があることから、松山市民のシビックプライドの醸成だけでなく、観光振興のためにも、観光資源の一役を担うべき施設や仕組みを早急に作るべきであると感じたものである。このサンノゼのように。